

発表・コメント

4つの班、それぞれ参加者（各班1名又は2名）が、話し合いの成果について発表しました。
各班、5分程度と短い発表時間の中で、それぞれの班の意見の特徴や強調したい点をまとめていただきました。



＜アドバイザー・オブザーバー＞

吉田 倫子 先生（県立広島大学保健福祉学部講師）

- ・人のつながりから、車に関連することまで、色々な問題点や解決策が出てきて良かった。
- ・他の町も見ながら、どういう雰囲気にしていけばよいのかを考えながら、次回のWSに向けて過ごして欲しい。

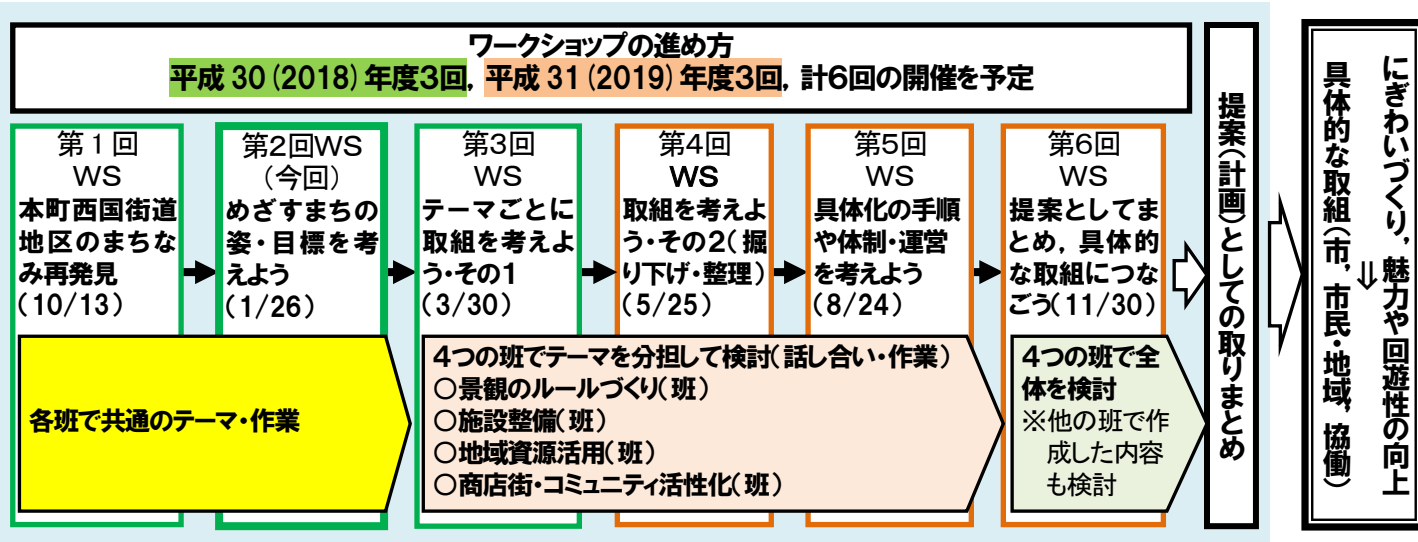
橋本敬一先生（三原市文化財協会 会長）

- ・歴史遺産が無くなりそうな所も、現にある。その中で昔からの商店が10軒だけ残っている（大切にしたい）。
- ・城下町という特性（様々な場所から人が入ってきた、それに寛容）から、住んでいる人、来る人がお互いに高めあっていけると良い。本町に来て、住んで欲しい、素晴らしい町にしたいと思う。
- ・市道45号の両側は、かまぼこ状で斜めになっており、その改善も取組として出てきていて良かった。

滝口 隆久 氏（株式会社まちづくり三原 統括マネージャー）

- ・素晴らしいアイデアが沢山出されていた。多くの魅力を活かしていこうと考えられており、それらが具現化できれば、住んでも良い町になると感じている。
- ・外部から来た大学生としては、面白いところが多くないが、「よがんす」は良いということを知ったので、そういう場所が増えれば良いと思う。そして、人が集える場所もあれば、なお良い。

【ワークショップの予定とその展開】



問い合わせ・連絡先

〒723-0015 三原市円一町二丁目3番4号
三原市 都市部 都市開発課 担当：奥広、西村
電話：(0848) 67-6113 FAX：(0848) 64-6057
E-mail：toshikaihatsu@city.mihara.hiroshima.jp
～まちなみづくり（まちづくり）に関わるご意見なども、お寄せください～



本町西国街道地区
まちなみづくり通信 第2号



～『にぎわいのある街道の再生、地区の魅力や回遊性の向上』をめざして～
平成31年(2019)2月 発行：三原市都市部都市開発課

本町西国街道地区において、にぎわいのある街道の再生、地区の魅力や回遊性の向上（地区の魅力づくりと活性化）をめざし、1月26日（土）に2回目のワークショップ（全体で6回を予定）を開催しました。

今回のワークショップでは、最初に「めざすまちの姿（将来像）・目標」、次にそれを実現するために「必要な取組」について話し合い、その成果を発表しました。

第2回ワークショップのプログラム等（要点）

日時：平成31年1月26日（土） 14:00～17:10 会場：サン・シープラザ 4階 第1研修室
参加者：住民・関係団体の皆さん26人、県立広島大学の学生の皆さん4人、アドバイザー・オブザーバー3人、広島県2人、三原市11人、進行役4人、見学者2人

はじめに

- 前回の振り返りと成果 ○今日の進め方・内容
- みんなで進めるまちづくり（講演）：『地域資源の発見から住民の手によるまちづくり』
吉田 倫子 先生（県立広島大学保健福祉学部 講師）
※次頁を参照
- まちの将来像などを考えるポイント
橋本 敬一 先生（三原市文化財協会 会長）
滝口 隆久 氏（まちづくり三原 統括マネージャー）
※次頁を参照



めざすまちの姿（将来像）・目標

～こんなまち（本町）にしたい、こんな考えで取り組みたい、こんなこと（視点）が大切…～

必要な取組

～めざすまちの姿・目標の実現のために必要な具体的な取組～
[自分たち（地域）で行いたいこと… ～（一緒に）～ 行政などに行ってほしいこと…]

4つの班それぞれで、めざすまちの姿(将来像)・目標、必要な取組について話し合いました。※3頁を参照



全体会

- 班ごとの発表
- アドバイザー、オブザーバーのコメント ※4頁を参照
- 次回以降の進め方と希望する班（4つのテーマ（班）から第1・第2希望を用紙に記入） ※4頁を参照
- 終わりのあいさつ（都市開発課長）、終了

『地域資源の発見から住民の手によるまちづくり』

県立広島大学の吉田先生より、みんなで進めるまちづくりについて、広島県府中市石州街道出口地区を事例に『地域資源の発見から住民の手によるまちづくり』と題して話していただきました。その要旨を紹介します。

●今日のワークショップに役立てる

まちづくりは住民が住みたいまちの姿を描き、それに必要なソフト・ハード事業を行政に求めるだけでなく、住民自らもまちづくりを担うことが大切です。

●石州街道出口地区の活動のはじまり

出口地区では若者の流出、空き家の増加、高齢化の進行・・・といった状況が進んでいました。こうした中、住民の「このまちをどうしたらいいのか?! 何とかしたい! このままでは不安。」という思いから、2001年に「まちづくりを考える会」、2002年には「石州街道出口地区まちづくり協議会」が結成されました。

●活動のはじまり⇒国の事業の導入

最初の具体的な活動は、防災の講演会、まち歩き、先進地の視察、写真展の開催でした。その中で「やっぱり、この町並みを生かしていこう!」という気運が高まりました。そして2004年には「街なみ環境整備事業」(国土交通省)の認定を受け、住民の合意により、修景基準(建物外観のルール)に基づいてまちをつくっていくことになりました。また、中心テーマ「生活からの視点に立った歴史を生かしたまちづくり」を設定しました。

●様々な取組(ハード・ソフトの取組の紹介)～集まる場をつくること・住民同士のコミュニケーションが、いざというときの備えにもなる(災害時、高齢者等の一人暮らし・要支援時、空き家化・・・)～

<修景の例>

- ・外観のルールに基づいて建物を修景(改修): 10年間でおよそ40件
- ・街なみ環境整備事業の期間は終了しましたが、今も修景基準が継承
- ・「夢ほたる講演」の整備: 憩い・防災の場、町内会で清掃
- ・公衆トイレの整備、道路・水路の改修・美化、案内板の設置
- ・消火器収納箱の製作: 試作品づくり⇒1週間後、有志で17台を製作⇒町内へ据え付け
- ・“おいでんせ祭り”: 首なし地蔵の大祭にあわせて開催。住民総出の「お・も・て・な・し」
- ・地域の子どものための“夏休みの寺子屋”を実施
- ・ひな祭り、ほたる祭り、キャンドルナイトなど年間行事(毎月何かが開催)



●新たな動き

空き家の活用や若い人たちの出口地区への移住が進みつつあります。

●「なぜ?」「どうやって?」「なんのため?」まちづくりが続いているか?!

①地域の課題に誰が取り組んでいるか(住民(新旧), 自治体, 専門家), ②活動の広がりはどうやってつづられているか(町並み, イベント, 空き家活用, 移住者支援, 運営費), ③地域への思いはどう変わっているか, 変わっていないことはあるか(愛着, 誇り), ④誰のために必要か(観光客, 住民, 自治体)を考えることが大切です。

まちの将来像などを考えるポイント

アドバイザー・オブザーバー

橋本敬一先生(三原市文化財協会 会長)

- ・道づくりを町民自らが考えてきた歴史があり、新道も明治10年頃に考えられるなど、自分たちで考え、繁栄していくという発想を持っていた。
- ・役場や警察、消防、商工会議所、銀行などがあり、中心地であったが、外に移転している。それら呼び戻すことは無理だが、基本となる部分は昔のままの形態で生活されている。
- ・住みやすいまちに変えていくことはできるので、皆の力で考えると良い。

滝口隆久氏(まちづくり三原 統括マネージャー)

- ・小早川隆景に関連するまちとして、多くの寺院がある。その中には街並みが一望できるような妙正寺などもある。距離も近いことから、隆景関連を見に来ていた方に教えると、大変喜ばれた。
- ・大島神社の鳥居を見に来ていた人もおり、場所を聞かれたりもした。SNSなどもあり、赤い鳥居の階段・坂道を再興できれば、さらに多くの人に来るのではないかと。
- ・眺望、歴史、文化があるまちなので、普段の生活なども振り返りながら、ずっと良いと思えるまちになるよう考えてほしい。



「みんなで進めるまちづくり」(講演)とアドバイザー・オブザーバーの方からのコメントの後、めざすまちの姿(将来像)・目標と必要な取組について話し合い、下の写真のように各班、2枚の模造紙に成果をまとめました。

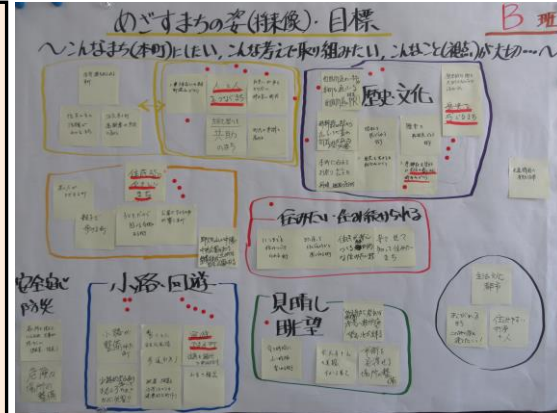
<めざすまちの姿(将来像)・目標>

<必要な取組>

A班
めざすまちの姿を「コミュニティ・住む」「魅力づくり・発信」から整理。前者は「交流・連携、マナー、住みよさ」、後者は「歩いて楽しい、体験、歴史、眺望、町家」などがキーワード。
取組として、多種多様なソフト及びハードが提案。



B班
めざすまちの姿として、住民のためのまちづくりは、住んでみたい人、来訪者も多くする。人と人をつなぐまちなどのキーワードも。
取組として、自分たち(地域)で行いたいことが多数出されており、チャレンジする人を応援するNPO設立も提案。



C班
めざすまちの姿として、防災・安全を含めた住みよさ、歴史、景観・空き家活用による魅力づくり、交流や観光・PRなどがキーワード。
取組として、情報発信や案内板・案内所、防災など、地域と行政が連携した取組も多数提案。



D班
めざすまちの姿として、若者、高齢者を意識したまちづくり、住民が主役のコミュニティなどがキーワード。
取組として、町内行事の拡充などコミュニティの強化、若者の移住促進の取組、イベントの盛り上げなどが提案。

